

業界団体によるバス運転者確保に向けた取組

1・原口太輔²・山岡弘和³・山本祥太⁴・宮地岳史⁵・岡田あかね

¹非会員 株式会社バイタルリード (〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井 5-17-5 グランデュア緑井 3F)
E-mail:haraguchi_d@vitallead.co.jp

²非会員 公益社団法人 広島バス協会 (〒732-0056 広島県広島市東区上大須賀町 1-16)
E-mail:yamaoka@bus-kyo.or.jp

³非会員 公益社団法人 広島バス協会 (同上)

^{4,5}非会員 株式会社バイタルリード (同上)

広島県ではバス運転者不足の恒常化による減便や路線廃止、受注控えなどの影響が出ており、運転者確保は喫緊の課題である。県内ではバス運転者専用の就職フェア等もなく、求人活動は個々の事業者委ねられていた。本稿で紹介する2つの取組は、広島県バス協会による県内のバス事業者の求人活動のバックアップを目的とするものである。1つめは、バス協会が主催で複数事業者による合同就職フェアを開催した。併せて、運輸局は「業界動向」、広島県は「移住・定住促進」、自動車学校は「必要な資格」の観点から、講演会を開催し、参加者の就職活動を支援した。2つめは、広島県内のバス運転者の求人情報を集めた検索サイトを新設した。無料かつ簡易に掲載できる仕組みとし、事業者の採用活動を支援した。いずれも初めての取組であったが、求人検索サイトは1日あたり146アクセスされ、就職フェアでは参加者71名のうち14名が採用された。

Key Words: 公共交通事業経営、事業者連携、バス運転者確保、採用マーケティング、Web とリアルの連動

1. 背景

タイトルページは2つの部分で構成されます。

(b)本文部分：横2段組

このほか、フッタ（ページ番号）が付きます。なおソフトウェアによっては、タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれていることがあります。

(1) タイトル部分のレイアウトとフォント

すべてのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺19mm、下辺24mm、左右ともに20mmに設定してください。タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ10mmずつ大きくとってください。すなわち、A4用紙の幅に対して左右それぞれ30mmずつのマージンをとります。そして以下の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル：ゴシック体20ptフォント、センタリング
(約15mmスペース)

著者名：明朝体12ptフォント、センタリング
(約5mmスペース)

著者所属：明朝体9ptフォント、センタリング

E-mailアドレス：明朝体9ptフォント、センタリング
(約10mmスペース)

アブストラクト：明朝体9ptフォント

キーワード：Times-Italic, 10pt, 5つ程度, 2行以内

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。'Key Words'という文字はボールドイタリック体にします。

(2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約10mmのスペースを空けてください。

本文は2段組で、左右のマージンは20mmずつ、段と段との間のスペースは約6mmとします。

本文には明朝体10ptフォントを用いて下さい。

(3) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページが入りますが、ページ番号は暫定的にタイトルページを第1ページとしてつけてください。

2. 一般ページ

第 2 ページ以降はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

(1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

3. 見出し（見出しが 1 行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは章、節、項の 3 段階までとします。章の見出しはゴシック体とし、2.などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を 2 行、下を 1 行程度空けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい。

(2) 節の見出し

節の見出しもゴシック体で、(4)などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに 1 行程度のスペースを空けて下さい。

a) 項の見出し

項の見出しは、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。項より下位の見出しは用いないで下さい。

4. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式(1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_r \sin z dz \quad (1b)$$

のように本文と独立している場合でも、 C_b 、 $\alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

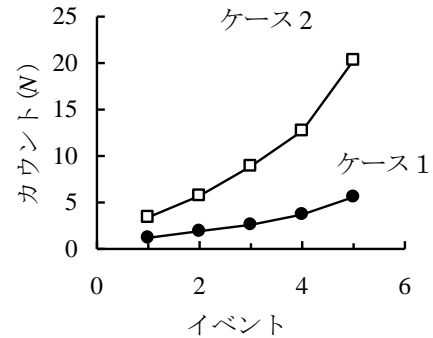


図-2 図のキャプションは図の下に置く

5. 図表

(1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2 段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1 段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を 1 段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には 1 ～2 行程度の空白を空けて区別を明確にします。

(2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意して下さい。特にキャプションの大きさ(9pt)より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します。

6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように「1」上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はそのすべてを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、

脚注にはしないでください。

なお参考文献リストのあとに 1 行空けて、事務局から通知された原稿受理日を右詰めで書いてください。ただし、最初の投稿原稿を用意していただく時点では、ここに?マークを挿入してください。

7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

最終ページには英文のタイトル、著者名および要旨を横 1 段組で書きます。このサンプルにあるように、本文や参考文献リストまでの 2 段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、10 mm 程度の空白を入れて英文要旨を配置します。英文要旨部分の幅はタイトル部分と同じく本文よりも左右を 10mm ずつ狭くします。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

参考文献

- 1) 本間仁, 安芸皓一: 物部水理学, pp.430-463, 岩波書店, 1962.
- 2) 日本道路協会: 道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編, pp.110-119, 1996.
- 3) Shepard, F. P. and Inman, D. L.: Nearshore water circulation related to bottom topography and wave refraction, *Trans. AGU.*, Vol.31, No.2, 1950.
- 4) C. R. ワイリー (富久泰明訳): 工学数学 (上), pp.123-140, ブレイン図書, 1973.
- 5) Smith, W.: Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th ITS World Congress*, CD-ROM, 2000.
- 6) 本間仁, 安芸皓一: 物部水理学, pp.430-463, 岩波書店, 1962.
- 7) 日本道路協会: 道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編, pp.110-119, 1996.
- 8) Shepard, F. P. and Inman, D. L.: Nearshore water circulation related to bottom topography and wave refraction, *Trans. AGU.*, Vol.31, No.2, 1950.
- 9) C. R. ワイリー (富久泰明訳): 工学数学 (上), pp.123-140, ブレイン図書, 1973.
- 10) Smith, W.: Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th ITS World Congress*, CD-ROM, 2000.
- 11) 本間仁, 安芸皓一: 物部水理学, pp.430-463, 岩波書店, 1962.

(2009.7.1 受付)